

第2回推進委員会資料
平成30年10月26日
学校適正配置推進室

小・中学校の適正配置に関する市民説明会の開催状況

1 説明会の参加者の状況

開催年	中央①	東部	西部	河辺	北部	南部	雄和	中央②	合計
2018年	77 人	51 人	46 人	19 人	67 人	31 人	8 人	57 人	356 人
2017年	19 人	47 人	58 人	24 人	40 人	24 人	7 人	25 人	244 人
(増減)	+58 人	+4 人	△12 人	△5 人	+27 人	+7 人	+1 人	+32 人	+112 人

2 参加者からの主なご意見、ご質問

(1) 学校適正配置の考え方、学校統合の方針について（15件）

- 今後、どれくらいのペースで具体化していくのか。具体的に統合の方針が決まるのはいつごろなのか。
- 将来の学校数が示されているが、統合の対象となる学校は具体的に決まっているのか。
- 複式学級がある学校は、他の学校に先行して統合を進めていくのか。

(2) 通学方法、スクールバスの運行等について（10件）

- 統合により学区が広がり、通学距離が延びる場合でも、児童生徒の登下校の安全を最大限確保してほしい。
- 学校が統合されて学区が広くなった場合、通学手段はどのような対応を考えているのか。スクールバスは運行されるのか。
- スクールバスを運行する場合は、中学生の部活動にも配慮した時間設定としてほしい。

(3) 地域コミュニティへの配慮や地域の理解、地域協議の方法等について（9件）

- 地域から学校がなくなった場合、その後の地域コミュニティの場をどうするかは検討しているのか。
- 学校適正配置を進めていく際は、地域の成り立ちや住民の考えにも十分に配慮してほしい。
- 来年4月から地域協議を開始するとのことだが、協議の回数や方法などの詳細は決まっているのか。

(4) 学級数、学校数のあり方について（8件）

- 適正な学級数を12～18学級としながら、望ましい姿を18学級としているのは、18学級ありきで統合を進めていく考えなのか。
- 小規模校には小規模校のメリットがあるのでないか。

(5) 学校の校舎や跡地の利活用、建て替えの考え方について（5件）

- 廃校となった場合の校舎や跡地の利活用は、どうなるのか。
- 老朽化が進んでいる学校の建て替えは、どのように考えているのか。

(6) その他

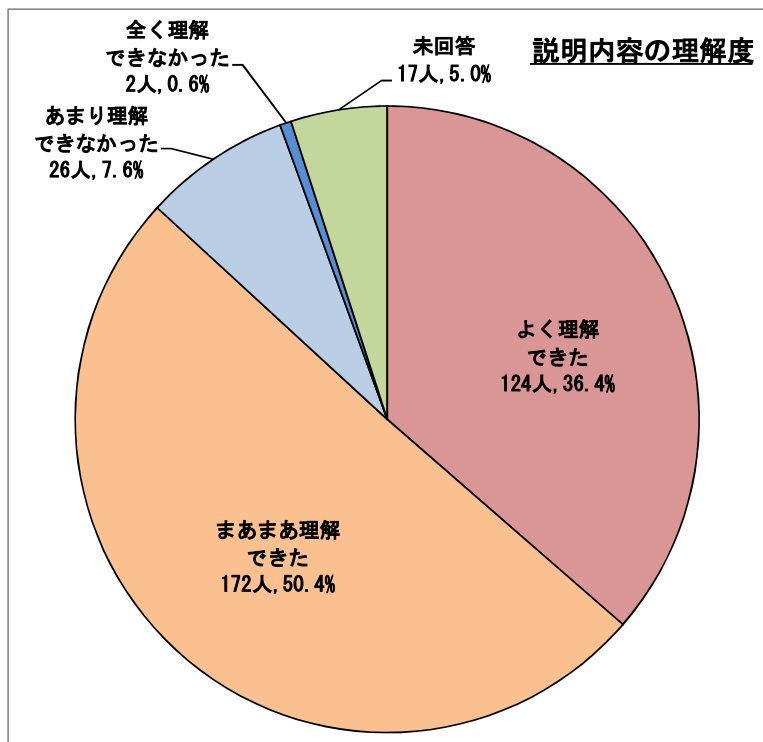
- ・指定校変更制度について
- ・学区の指定、見直し等について
- ・児童生徒数の推計について
- ・児童館の取り扱いについて …など

3 参加者アンケートの状況

説明会参加者にアンケートを実施し、341人から回答を得た。(回答率95.8%)

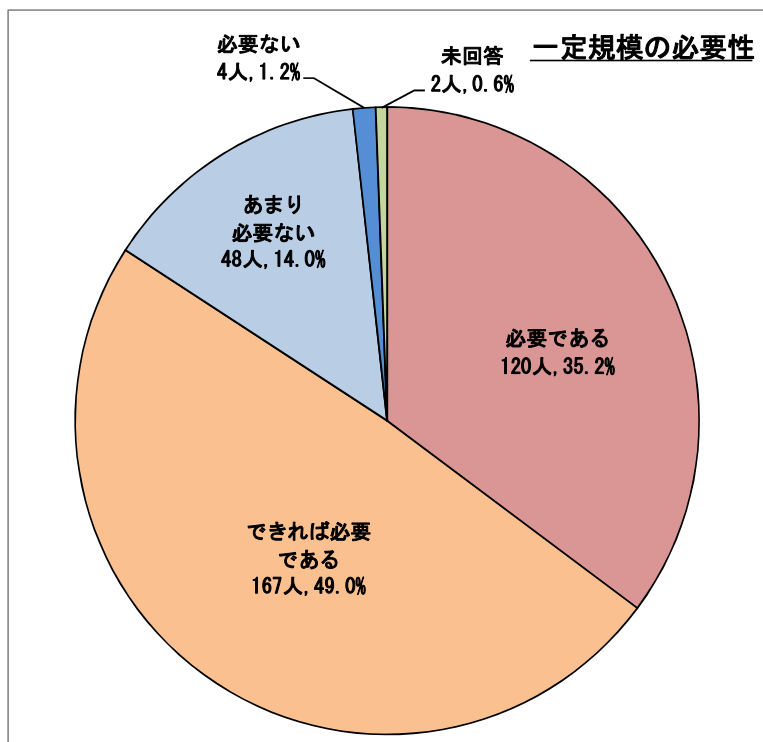
(1) 説明内容の理解度について

説明会の説明内容の理解度については、「よく理解できた」と「まあまあ理解できた」とする回答が約87%であった。



(2) 学校の一定規模の必要性について

学校が一定の規模（12～18学級）を持つことの必要性については、「必要である」と「できれば必要である」とする回答が約84%であった。



(3) 学校数の目安の妥当性について

学校配置素案に示した学校数の目安の妥当性については、「おおむね妥当である」とする回答が約76%であった。なお、「もっと多くするべき」との回答は約13%、「もっと少なくするべき」との回答は約6%であった。

